

しまらや杉

川之石高校PTAだより

令和7年2月28日発行

発行/川之石高校PTA

編集/川之石高校PTA広報委員会

印刷/平家印刷

川之石高校 HPアドレス

<http://kawanoishi-h.esnet.ed.jp/>

川之石高校は『創立百十周年』を迎えました。

教頭 村上典子



本校は今年度、創立百十周年という大きな節目を迎えました。百十年という長い歴史の中で、シンボルのヒマラヤ杉は、私たちの知らないどのような景色を見てきたのだろうかと思いを馳せることがあります。

百十年前、私立実践農業学校としてスタートした本校は、愛媛県伊方農業学校となり、その後、川之石高等女学校と合併し現在の川之石高等学校となりました。常に時代の変化に対応し、地域社会の発展に貢献できるようにと努力を続けてきました。そして総合学科へと教育課程を変えながら、新しい時代に応えることができる人材育成にも努めてきました。創立当初からの「地域に根ざした教育」という理念は、今日まで脈々と受け継がれ、数多くの卒業生たちは、地域社会の様々な分野で活躍し、本校の伝統を築き上げてくれました。昨年の、記念体育祭前日の決起集会では、綱引き大会が行われ、全校生徒と全教職員が、お揃いの百十周年記念Tシャツに身を包み、一致団結して大いに盛り上がりました。その後も記念体育祭、記念式典、記念川高祭が盛大に開催され、これまでの歩みを振り返り、歴史の重みと川之石高校のすばらしさを改めて感じる時間となりました。

令和八年度からは、八幡浜市内三校の統合により、新たな高校へと生まれ変わります。この大きな変化は、川之石高校の終わりではなく、新しい未来への一歩を踏み始めるための幕開けだと思えます。百十年の歴史の中で培われた伝統や校風をもとに、AIやICTの活用、グローバルな視点に立った新しい学びが取り入れられ、時代の変化に対応できる教育を進めていきます。三校が共に創り始める新しい歴史の中で、川之石高校の理念である「地域に根ざした教育」が実践され、地域を支える大きな力になると信じています。

令和七年度 (川之石高校百十周年)

令和八年度 (川之石高校百十二周年)

令和九年度 (川之石高校百十三周年)

(新)八幡浜高校一周年

……歴史はこれからも続きます。

近年の進学状況について

(進路担当) 三好 君人



最近3年間の本校生徒の進路状況を見てみると、就職者が減少してきて、約7割が進学をしています。進学者の内訳では専門学校が最も多くなっています。また、「年内入試」という言葉が最近定着してきました。多くの受験生が12月までに、進路を決定するようになってきました。昨年度入試では、私立大学の入学者の内、約6割は12月までに入学を決定しているそうです。本校でもほとんどの3年生が年内に進路を決定しています。

さて、3年生の皆さん、これから受験を控えている人は最後まで努力し、希望が叶うよう頑張ってください。進路が決定している人は、最後の考査だけでなく、進学後に必要な学習に取り組んでほしいと思います。

1・2年生で進学を希望する人は、早めに目標を決めておきましょう。人口の減少や入試改革などにより、入試の方法だけでなく、各学校の難易度も驚くべきスピードで変化しています。たった5年ほど前と比較すると易化している学校も多くあります。早い時期から目標を定めてチャレンジする人ほど学力の伸びが大きいという調査結果もあります。春を迎え、進級する前に上級学校について調べてみることを勧めます。

社会に大きくはばたけ！

(就職担当) 江本 聖志朗



今年度、川之石高校では、学校幹旋で就職を希望する生徒26名、公務員を希望する生徒5名の内定を頂きました。生徒を支えてくださった保護者の皆様には、この場を借りて感謝申し上げます。無事、就職に導くことができ、就職担当としてうれしく思います。

さて、これから社会に出ていく皆さんに社会を生き抜くために大切なことを示したいと思います。まずは、「挨拶」を大事にしてください。朝の挨拶、すれ違いの時の挨拶、退勤時の挨拶などの挨拶を大切にしてください。これから社会に出れば、つらいこと、苦しいことが多いですが、それ以上に楽しいこと、うれしいこともあります。つらくなったり、周りを見てみてください。助けてくれる人は必ずいます。抱え込まないようにしましょう。

また、「ワークライフバランス」を大切にしてください。仕事は、生計を立てるための手段です。仕事のために、自分の人生の全てを犠牲にするのではなく、仕事も生活もうまくいくようにすることはとても大事なことです。どうしたらうまくいくのか、考えながら日々の仕事や生活に励んでください。

人生100年時代と言われています。失敗を恐れず積極的に色んなことに挑戦し続けてください。また、成長した姿で会える日を楽しみにしています。

生徒の活動報告

11月8日 記念川高祭開催

進取果敢 若き力で

～長き伝統と新たな歴史が今ここに～



寺話コーラス



吹奏楽部



野外ライブ



書道パフォーマンス



今年度の記念川高祭では、書道パフォーマンスと作品展示、書道体験コーナーをさせていただきました。書道パフォーマンスは、短い練習期間で緊張や不安もありましたが、練習していくうちに上達し、百十周年の節目に二つの作品を披露することができました。多くの先生方とも一緒にオープニングを盛り上げることができ、とても楽しく充実した川高祭になりました。今後も書道パフォーマンスを通してイベント等に参加し、仲間との練習の時間を大切にしながら、地域に貢献していきたいです。(2年次3組 山岡 花音)





川高生大活躍!

第48回全日本アンサンブルコンテスト愛媛県大会 銅賞

3年次 西島 愛華 2年次 山崎陽桜里
2年次 大下 媛乃 1年次 井上 莉桜

第38回愛媛県高等学校総合文化祭 優秀 写真部門 2年次 田中 陽和

私は、写真に興味があったため報道部に入部しました。最初は、カメラの使い方が難しく嫌になることがありましたが、先輩や顧問の先生からアドバイスをいただき、いろいろな場面の撮影に挑戦しました。しかし、いくら写真展やコンテストにたくさん応募しても入賞することができませんでした。今回、高文祭に出展した「自分との闘い」は今までの反省をいかして、撮影する前に構図を決め何回も撮り直しをしました。この作品が優秀賞に選ばれ全国大会に出展することが決まった時とても嬉しかったです。これからも頑張ります。



私は今回、第48回全日本アンサンブルコンテスト愛媛県大会に出場させていただきました。サクソフォア四重奏で、アストル・ピアソラ作曲の「リベルタンゴ」を演奏しました。

県大会の出場は私たちの希望でした。この曲は去年も演奏した大好きな曲なので、昨年よりも深まりのある音楽を造って、県大会に行きたいと思っていました。地区予選を通過してからは、県大会まで2週間ほどしか時間がありませんでした。顧問の先生や外部講師の先生の御指導のもと、年末年始も一生懸命練習をしました。

県大会当日、広い松山市民会館の大ホールに緊張もしましたが、自分を信じて吹き切りました。あっという間の4分間でした。結果は銅賞でしたが、悔いはありません。本当に良い経験をさせていただきました。御協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。これからも一生懸命頑張りたいです。(山崎 陽桜里)



心の輪を広げる体験作文 最優秀賞 2年次 浅川 結衣



私の心の輪を広げる体験作文「祖母から学んだこと」という作品が、愛媛県の最優秀賞をいただいたことをとても嬉しく思います。私の祖母は、訪問介護員として働いていました。私も現在、高校で福祉を学んでおり、先日介護実習に行かせていただきました。障がいがある方とのかかわり方や、支援が必要な方への声かけなどを学ぶことができました。これからも福祉の勉強を続けていき、将来は立派な介護福祉士になれるように、勉学に励んでいきたいです。

さつまいも・みかんの収穫体験(川之石小学校)

今年度は、10月に川之石小学校1・2年生とさつまいも掘り、11月に3年生とみかんの収穫をしました。さつまいも掘りでは、「大きい」「おいしそう」などの声が聞こえてきました。一生懸命さつまいもを収穫してくれたので嬉しかったです。みかんの収穫では、一緒に収穫を楽しむことができました。収穫後は、みんなで海を眺めながらみかんを食べ「おいしい」「あま〜い」など嬉しそうながみかん園に響いていました。私たちも楽しい時間を過ごすことができました。



(3年次 岩井愛華)



募集中

P T A の皆さんから、学校や P T A 活動についての質問・要望を募集しています。先生方からの回答を本誌に掲載する予定です。『ひまらや杉』についての「意見・感想」もお待ちしております。どんな小さなことでもかまいません。お気軽にご連絡ください。

〈連絡先〉

P T A 広報委員 川之石高校
総務厚生課まで

(☎ 3610550)

お手紙もお待ちしています。

編集後記

今年一年を振り返ると、川之石高校が創立百十周年ということで、記念川高祭の前日に記念式典と航空写真撮影が行われました。毎年、川高祭は11月3日の文化の日がありますが、今年は平日に行われました。そのためか少しにぎわいは少なかったように感じましたが、子どもたちは楽しく過ごしていました。

我が家のことになりましたが、私自身も川之石高校を卒業しており、子ども二人も現在楽しく通っております。少子化の影響もあり、令和8年度には新たな学校として再編されますが、地域に愛される川之石高校を卒業できたことを、うれしくもあり誇りにも思っています。

川之石高校でしか学ぶことができないこともあるので、来年度も色々なことを学び、充実した高校生活を送ってほしいと思います。(P T A 広報委員)